

シリーズ

東久留米の学校史

その9

新制度の学校1

昭和20年(1945年)8月15日、長く悲惨な戦争が終結し、日本は困難な再建への道を歩み始めます。

民主的な教育改革も進められ、9月に文部省は「新日本建設の教育方針(新教育の方針)」を発表、10月に連合国軍最高司令部(GHQ)の「日本教育制度に対する管理政策」等の四大指令が出されました。

翌21年3月に米国教育使節団が来日し、8月には教育刷新委員会が設置されました。こうして、昭和22年3月1日、

31日、その後の教育制度の骨格となる「教育基本法」と「学校教育法」が公布され、4月から新制度の小学校・中学校が発足したのです。久留米村においても、久留米小学校の再生や新制久留米中学校の開設など大きな課題に直面しました(写真1)。

教育基本法と六・三制

「教育基本法」は、前年に公布された「日本国憲法」第26条の「教育を受ける権利」の規定に基づき制定されたもので、なかでも学校教育が最も重視され、「学校教育法」も同時に制定されました。この新制度の特徴は、①教育の機会均等、②普通教育の向上と男女差別の撤廃、③学校制度の単純化、④学術文化の進展(大学・大学院の充実など)でした。

最も身近で特徴的な改革

は、無償の義務教育が9年間と決定され、小学校6年・中学校3年の、いわゆる六・三制という新学制が実施されることになった点です。この六・三制の実施にあたって、全国的に最も難題だったのが新制中学校の開設でした。

久留米中学校の誕生

久留米中学校は、戦後の混乱した社会情勢のなか、六・三制義務教育制度の一環として昭和22年(1947年)4月に誕生しました。生徒数245人、6学級、職員11人をもつて4月28日に開校・入学式を迎えましたが、その開校に至る過程は困難を極めたと伝えられています。校舎・用具・教員の確保、そして生徒への周知など、当時の村の理事者たちは何から手を付けてよいか当惑したといえます。

「学校教育法」の規定により、市町村はその区域内に必要な小学校と中学校を設置しなければなりません。当時、全国には約1万の市町村がありましたが、どこもゼロからの出発でした。しかも、新学制の実施決定は昭和22年2月10日の臨時閣議であり、その準備期間は僅か2カ月間でした。新制中学校の開設に向けて、どの市町村も大変な苦境に立たされたのです。

なかでも全国の自治体で最も苦労したのが校舎の確保でした。多くは従来からあった小学校に間借りしたり、分散型や時間差型を採用したり、かつての寺子屋のような様相を呈するところもあったようです。

ところが、久留米村の場合は、都下で唯一の完全独立校舎を持つ中学校として開校することができたのです(写真2)。その要因となったのが、当時の南沢一〇九番(現中央町一丁目一番)にあった都立久留米青年学校の存在でした。久留米青年学校は、昭和10年(1935年)に久留米小学校の中に村立として開設されましたが、昭和12年に当時3校あった東京府立の青年学校再編により東京府に移管され、組織的には東京府豊島師範学校(東京学芸大学の前身)に併置されることになり、南沢の久留米小学校東分教場(後に分校)の西側に独立した校舎が建設されました。青年学校は基本的には市町村立でしたが、久留米青年学校は多摩地域では唯一の東京府立(昭和18年から都立)の青年

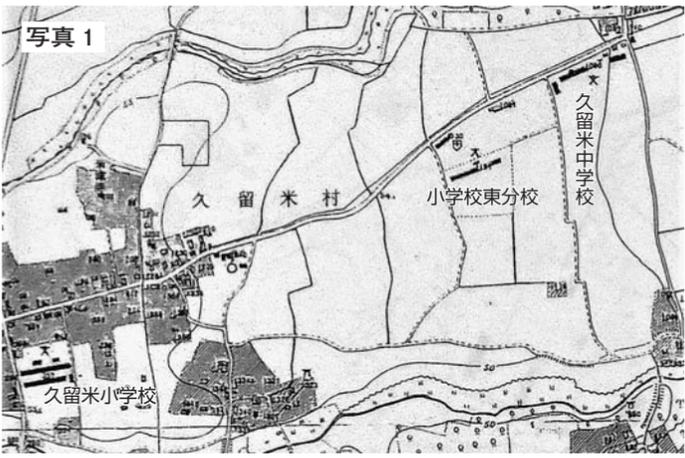


写真1



写真2



写真3

↑雪の日の校庭と校舎(昭和30年代撮影)(「あゆみ」久留米中学校創立50周年記念誌・1997年刊より)



写真4

学校だったのです。しかも、昭和18年に青年学校女子教員臨時養成所も併設されたため、良好な教育設備が整っていました。そこで、久留米村としては、青年学校と養成所の校舎や用具を借り受けて新制中学校を開校する方法を模索しました。しかし、東京都との交渉は難航を極め、当時の村長や村議会議長らを中心に、都知事を含めた都の担当部局と精力的な交渉を進め、その熱意が認められて、ついに念願の貸与が決定したので

学校についても、昭和21年4月に着任していた小嶺清一青年学校長が、当時の3人の教員と協力して確保を進め、小嶺氏がそのまま久留米中学校の初代校長として就任しました。青年学校は廃止。小嶺氏は後に「私も東京都の教育刷新委員会の委員でしたが、終戦後の何もない時期にどうして新制中学校を発足させたらいいか、全く雲をつかむ思いでした。幸い久留米村には東京都の青年学校と女子教員養成所の建物があり、その建物、椅子、机その他一切のも

→開校時の久留米中学校(1947年米軍撮影空中写真・USA-M8661-68部分・国土地理院)右端の建物は、撮影当時は久留米小学校東分教場で、昭和26年に現在の第三小学校の場所に作られた中学校の新校舎と交換して、中学校の校舎の一部となりました。周囲の白い丸い点は空襲の爆弾炸裂痕。

のを使わせていただくことになりました。村の理事者の方々も新制中学校発足の為に大変苦勞されたことは私が申すまでもありません。先生を集めるのも一苦勞でした。当時の青年学校の3人の先生とあの手この手を通じて先生方を集めました」と述懐しています(注1)。

さら紙よりもひどい紙で10ページくらいの教科書が月々配給されたこと、ピアノが見たこともないようなポロポロであったと語る音楽の先生、その音楽の先生がたまたま懇意にしていた「真白き富士の嶺」で知られる作詞家の福田正夫氏と著名な外山邦彦氏が無償で校歌を作曲してくれて

開校の年の7月には完成したこと、翌年の第一回の卒業生が24人であったこと、学校の周囲の畑には空襲の爆弾の炸裂した跡がまだたくさん残っていたことなど、久留米中学校の誕生に関する逸話は語りつくせません(写真3・4)。戦後の大変な混乱期に、村の人々が新しい教育の時代をつくるという情熱をもって、教職員や生徒とともに久留米中学校を誕生させた物語は、今後も長く語り継がれるでしょう。

なお、久留米中学校となった旧青年学校の校舎は、中学校が現在の幸町五丁目に移転する昭和43年(1968年)まで使われましたが、校舎解体の日まで、玄関には旧豊島師範学校の撫子(なでしこ)の花弁の徽章が付けられていたといえます。

注1「あゆみ」久留米中学校創立20周年記念誌(以下次号)
(本文は山崎 丈市文化財保護審議会委員による)
詳しくは生涯学習課文化財係 ☎472・0051へ。

東久留米市 総合教育会議を開催します



並木市長

多くの方の傍聴をお待ちしています。

並木市長から、総合教育会議のご案内です。「総合教育会議」は、教育委員会と私が、地域の教育課題などについて、意見交換や協議を行う場です。毎回、テーマを決め、独特のリラックスした雰囲気の中で、熱い意見交換が行われています。令和元年度の第一回目は、教育委員会定例会に引き続き、7月1日(月)の午前11時から正午まで、市役所7階の会議室で開催されます。今回のテーマは「私の中に最高のレガシーを残そう」2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に」です。

平成30年度に続き、令和元年度も8月の第3週に連続した休みとなる「学校閉庁日」を設けます(今年度は8月13日~16日)。この期間は校長、副校長及び教職員は登校しません。※関連記事は1面にありますのでご覧ください。

お知らせ 今年度も学校閉庁日を実施します



教育予算の使い道をお知らせします

令和元年度一般会計歳出予算422億円のうち、教育委員会が所管する取り組みには、第4次長期総合計画後期基本計画が掲げる基本目標の一つ「子どもの未来と文化をはぐくむまち」に基づき、47億6,000万円の予算が組まれました。教育委員会はどんなことにどれくらいの予算を充てているのか、主なものをお知らせします。

【学校教育環境の整備】《学力関係》学力パワーアップサポート事業20,986千円 《学校統廃合関係》学校再編成事業7,499千円 《教員の働き方改革関係》スクール・サポート・スタッフ(教員の学習指導に関わらない業務を担う)配置事業29,064千円▽教員出退勤管理機器導入事業3,870千円▽自動音声応答装置導入事業1,474千円 《学校施設関係》第二小学校東校舎棟大規模改造工事414,351千円▽第五小学校給食配膳室ほか整備事業64,460千円▽第七小学校水飲栓直結給水化工事22,550千円▽第十小学校便所改修工事に伴う実施設計委託7,370千円▽小学校体育館トイレ洋式化工事11,000千円▽中学校体育館トイレ洋式化工事2,640千円▽大門中学校校舎棟西側ほか大規模改造工事454,252千円▽東中学校校舎棟東側ほか中規模改造工事131,955千円▽久留米中学校コンピュータ室整備及び既存建物解体工事39,661千円 【生涯学習環境の整備】《生涯学習施設関係》生涯学習センタートイレ改修事業1億5,380千円▽上の原屋外運動施設整備事業1億5,109万4千円▽中央図書館大規模改修事業(実施設計)2,843万5千円 《生涯学習事業(オリンピック・パラリンピック関連事業)》オリンピック・パラリンピック機運醸成事業委託1,500千円▽パラスポーツ(パラリンピックの種目であるボッチャの体験イベントの開催)振興事業委託900千円

詳しくは市政情報コーナーや図書館に配架している予算書、市ホームページ「東久留米市の予算~教えて!」等をご参照願います。